

# 展勝地風土記

Vol.31

令和2年4月24日

展勝地開園100周年記念事業実行委員会  
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-18279

展勝地開園100周年記念事業実行委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的事実、地理的事実、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。今回は令和2年5月22日に発行します。

## 1500人が参加した 「北上市民大植樹祭」

### 展勝地風土記編集委員会

46年前の1974（昭和49）年10月6日、約1500人もの市民が展勝地児童公園に集合。開会式の後、国見山を囲むようにベニヤマザクラ千本が植樹されました。



多くの企業や団体、個人が参加

この大植樹祭は、北上青年会議所（阿部良治理事長）が主催したもので、実行委員長は小笠原直敏さん（後の北上さくららの会副会長）が務めました。

北上青年会議所では設立10周年を迎えた1973年、記念事業の一環として当時の北上市の木・ベニヤマザクラを展勝地に、そして北上市の環境緑化に役立ててほしいと市に二百本寄贈しました。

翌年、青年会議所は「グリーングリーン作戦」を重点事業に取り上げ、健康的な住みやすい町づくりを進めるために、北上川河川敷の清掃活動などを実施。この作戦の柱として、市に寄贈した桜を青年会議所主催で植えることを決意しました。当

初は単独での実施を予定していましたが、緑化事業に対する関心呼び起こすとともに、展勝地の桜を愛する心を植え付けようと広く市民に参加を呼びかけ、日本さくらの会、北上市、北上観光協会、和賀林友会の後援のもとに、市から合わせて千本の提供を受け、大植樹祭を開催することになったのです。

展勝地生みの親の故沢藤幸治翁が説いた「展勝企画の精神」を受け継ぐことも実施する理由となりました。桜を植樹し、展勝地を創造しなければならぬと説く背景、実現に向けた努力と意志の強さ、そして守り育てていくことの大切さも考えたのでしょ。

さらに展勝地は開園してから53

年が経ち、桜並木のソメイヨシノは、樹齢50〜60年しかもたないといわれていた当時、そろそろ寿命を迎えて枯れてしまうことを恐れ、よりよい保護と工夫を凝らした植樹を行うことと、展勝企画の精神を受け継ぎ、沢藤翁の計画案に沿って、さらに展勝地を成長させることが青年会議所の務めと捉えたようです。

大植樹祭当日は、家族連れや職場のグループ、中高生など約1500人もの市民が参加する文字通り「北上市民大植樹祭」となりました。

開会式は展勝地児童公園で行われ、主催者の阿部良治理事長は「今から50有余年前、この展勝の地に、桜樹と共に植えられた展勝の精神が、今日ここに再び結集され、憩い



無事全員分の芋の子を振舞い安心した  
小笠原さん(左)



コースごとに桜を植樹

の場としてのオアシスが整備、拡大されることは、市民にとつてはもちろんのこと、最近多くなった県内外の来訪者にとつても素晴らしいことだと思えます。私たちは長い間、この展勝の地から種々の恩恵を受けて

まいりました。今こそ感謝の意を込めて報いる時期だと思えます。今日のこの佳き日に私たちは覚悟を新たに、多大のご協力をいただいた市民の皆さんを始め、関係各位の皆さまに感謝を申し上げ、より自然を愛し、より緑を育む気持ちを強くし、私たちの町、北上の緑化100年の計に添って頑張りたいと思えます」と開催の思いを話しました。

植樹方法の説明の後、展勝地周辺に散らばってベニヤマザクラの植樹を実施。当日は、1974年日本さくらの女王篠崎範子さん(宇都宮市出身)と日本さくらの会品川実事務局長も特別参加し、心を込めて若木が植えられました。

植樹の後は「大芋の子汁大会」が児童公園で行われ、約1500人分の芋の子汁が振る舞われしました。これだけの芋の子汁を作るとなると、大量の食材や調理する人が必要となり、料飲店組合や自衛隊などの協力を得たといえます。「民謡とバンド演奏」も披露され、市民大植樹祭に参加した市民たちは、秋の展勝地を満喫したようです。

この大植樹祭の思い出を小笠原直敏実行委員長は「連日連夜議論百出の結果、計画が次第に大きくなり、

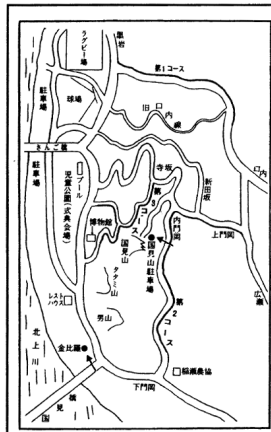
総延長20kmに千本の桜を植えようということになりました。しかも、当日の参加者全員約1500人に芋の子汁をごちそうすることになりました。テナヤ、ワシヤとはこのこと、

風呂敷を広げすぎたなと思いつつも、やるより仕方ありませんでした。阿部理事長先頭に苗木の手配、植樹場所の選定、地主との交渉はもとより、市役所、土木事務所、自衛隊など関係機関あるいは日本さくらの会、教育委員会、料飲店組合などの協力団体との打ち合わせが連日開催されました。一方会員も10数班に分割し、総力を挙げて取り組みました。植樹祭当日前夜まで激しく降り続いた雨もすっきり晴れ上がり、市内各地区の小中高生、各職場、そして一般家庭の皆さん約1500人に加ふ参加者のもと開会式が行われ、その後無事植樹が終了し、芋の子汁を食べていただいたあの光景は今も忘れません。その後、国見山文化を見直す会、北上さくらの会が結成され、一方、極楽寺の新築、男山の観音像、内門岡の桃源郷づくりなどが市民の手によって進められ、通年観光施設の拠点として、また市民憩いの場としての国見山周辺が開発されることを望みます」と話していまし

市民大植樹祭参加チームと植樹コース  
◎ご参加の皆様のご芳名は名簿にして北上市立図書館に保存されます。

製作所、北上鉄工協組、サトー機工株東北グループ、東北銀行、北上市役所  
第3コース(磐山、寺坂線) 個人参加、北上市公園委員会、口内中学校森林愛護少年団、株協同ライト商会若手工場、株東北油化、北上中学校、北上信用金庫、飯豊中学校、北日本相互銀行、若手銀行、北上消防署北上消防団、和賀林友会  
第4コース(国見山駐車場) 北上老人クラブ、北上婦人団体連絡協議会  
○金比羅前 石デパート、北上商工会議所合同庁舎関係、北上郵便局、料・飯店組合青年部、北上女子専門学校

第1コース(口内線) 黒沢尻南高校、本通り一丁目振組、北上ロータリークラブ、北上西ロータリークラブ、北上ライオンズクラブ、和賀郡労連、北上市議会議員団、北上北中学校、東京製綱スチールコード株、三菱製紙株北上工場、劇団きたかぜ、北上市農業協同組合  
第2コース(下門岡~上門岡線) 北上青少年ホーム、株パンビ北上工場、若手東芝エレクトロニクス株、雪印種苗株北上工場、日本特殊ヒューム管工業株、ピーエスコンクリート株北上工場、株東北佐竹製作所、谷村電機精機株、黒沢尻北高校、株北州、専大北上高校、原産業株北上工場、北上農業高校、黒沢尻工業高校、大昭和紙工製造株北上工場、(布)大和



た。

実行委員長を務めた小笠原直敏北上さくらの会前副会長は、今年沢藤幸治翁のもとに旅立ちました。

(文責・八重樫信治)

※参考…北上青年会議所広報「歩」市民版(1974年3月号)、同市民版(1974年8月号)・第3号、『山河花満ちて』展勝地80年(2002年2月・開園80周年記念事業実行委員会)